



AUE News

2014年2月15日

第 77 号

編集・発行
愛知教育大学広報チーム
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500



目次

- 行事予定(2月16-28日)
- トピックス
 - ・松田学長らがアメリカの協定校ボールステイト大学、NY州立フレドニア校を訪問
 - ・卒業生今村彩子監督の映画「掛け橋」上映会
 - ・ガラス作品展
 - ・愛教大フェア in 刈谷
- 愛教人インタビュー
 - ・卒業生近藤安由美さんが「丹波の森ウッドクラフト展」グランプリ受賞
- お知らせ・報告・投稿
 - ・2013年3月卒業生の教員就職者数で本学が全国1位
 - ・愛知県内教育委員会との地域教育連携推進協議会
 - ・就活メイク講座
 - ・招へい教員サンパウロ大学トマナリ教授の愛教大滞在レポート
 - ・催しもの案内

行事予定(2/16-28)

- 18日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)
財務委員会 (15:30～ 第五会議室)
- 19日(水) 教員人事委員会 (13:30～ 第五会議室)
代議員会 (16:30～ 第五会議室)
- 21日(金) 薬品管理専門委員会 (13:30～ 第五会議室)
- 24日(月) 役員会 (13:00～ 学長室)
安全衛生委員会 (16:40～ 第五会議室)
- 25日(火) 個別学力検査等・前期日程 (26日まで)
- 27日(木) 情報システム委員会 (10:00～ 講堂会議室)
- 28日(金) 保健環境委員会 (13:30～ 第五会議室)

トピックス

松田学長らがアメリカの協定校ボールステイト大学、NY州立フレドニア校を訪問(1/26-2/3)

本学のアメリカの協定校、ボールステイト大学とNY州立フレドニア校を松田正久学長が、1月26日(日)から2月3日(月)の日程で訪問しました。今回の訪問は国際交流の拡充と視察などが目的で、両大との交流に長年携わってきた安武知子名誉教授と稲吉隆教育創造開発機構運営課長、秘書広報課の小林が同行しました。

【ボールステイト大学訪問】



初めに訪ねたボールステイト大学は、アメリカ北西部のインディアナ州立大学の3つのうちの1つ。学生数2万1千人の総合大学で、本学とは毎年、学生の交換留学が行われています。27日(月)には、同大のイマーラ国際交流センター長らと懇談し、松田学長は「交流をさらに活発にしていきたい」と留学生

の増員や短期留学やインターンシップについて協議しました。続いて、ルーク人文学部長、日本語専攻の鄭教授と、留学可能な人数や時期、単位の扱いなどを話し合いました。午後には、



本学附属岡崎小学校と交流のある同大附属パリス校を訪問し、教室や図書館、ホームカミングデイの準備の様子などを視察。その後、大学で日本語専攻学生に本学への留学を呼び掛けるプレゼンテーションを行うと、予想を上回る学生 37 人と教員 4 人が参加し、安武名誉教授による本学概要説明、稲吉課長による留学生活



の紹介に熱心に聴き入っていました。夜には、本学主催で日本語教育の教員や本学からの留学生 2 人との夕食会を開き、留学生活などについて歓談。学生は「授業のための準備が日本より大変ですが、充実した毎日です」と笑顔で語りました。28 日（火）は、同大日本語教育の松本一美准教授とパリス校研究所のハムストラ氏と、附属高校との交流など新たな交流の可能性について懇談。さらに、留学受け入れ事務担当のカントレル事務局長とは、インターンシップや短期留学のための課題を協議。バック副学長のは、松田学長が本学への教員招へいプログラムの提案や本学学生の教育実習を要望、実施時期や期間を選べば実現可能なことを確認して、詳細を検討することになりました。午後は、日本語教育の富沢定利教授の案内でキャンパスツアーが行われ、附属図書館、学生寮、スタジアム、同窓会会館など、同大の充実した施設を視察しました。

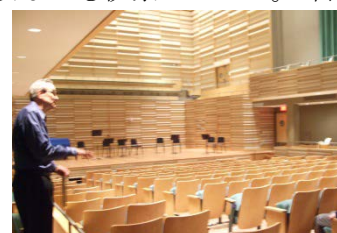


【フレドニア校訪問】

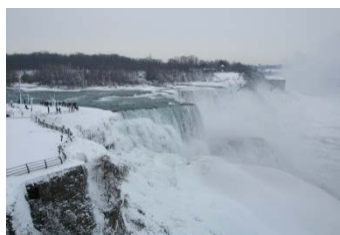
30 日（木）は、ニューヨーク州立大 SUNY フレドニア校を訪問。同校は教員養成と音楽教育を主体とする学生数約 5,000 人の大学。ブラウン教務担当副学長と互いの大学概要を紹介し合った後、学長宿舎でのランチミーティングでホーバーツ学長をはじめ、国際交流担当の役員らと歓談。両学長が協定内容を再確認して署名をし、現在は中断している交換留学の再開について話し合いました。午後は、外国語専攻の学部生、大学院生の各授業で本学を



プレゼン。松田学長は「ぜひ本学へ留学を」とアピール。その合間には、同大自慢の音楽ホールや特別支援教育の教室、基金事務局、産学連携のための拠点施設なども視察しました。今回の訪問の最中に、同大副学長らが本学を訪問する計画が伝えられ、今後の交流促進に向けて動き出すこととなり、訪問の成果を実感することができました。



2 月 1 日（土）2 日（日）は同大教職員の案内で、車で 1 時間ほどの場所で開拓時代の生活を今なお続けるアーミッシュの村や、



カナダとの国境に位置するナイアガラの滝などを見学、同大周辺の環境も知ることができました。

今回の訪米中、アメリカ東部は記録的な寒波が襲来し、ボールドステイト大では -27°C という寒さを体験。授業や業務の一部が休止になったこともありましたが、両大学の関係者の尽力で無事に訪問を終えられたことに感謝します。

（秘書広報課 渉外広報係長 小林則子）

卒業生今村彩子監督の映画「架け橋」上映会(2/1)

東日本大震災で被災した聴こえない人取材したドキュメンタリー映画「架け橋」の上映会が、

2月1日（土）午後1時半から、名古屋掖済会（えきさいかい）病院救命センター4階講堂で行われました。その監督は本学障害児教育出身の今村彩子氏です。また、映画のナレーションと主題歌は、本学国語教育出身の小島一宏氏（大同大学准教授）です。映画の後、お二人のトークと小島さんのピアノ演奏と歌がありました。本学出身のお二人のコラボによってこのすばらしい作品が生まれた事を出身大学の役員として大変喜ばしく思います。



映画の上映はおよそ75分で、3.11の大震災から15日後に仙台市に入り、以後、2年4カ月をかけて聴覚障害の方をずっと取材してきたドキュメント作品です。そのきっかけは、今村氏自身が本学で仕事の打ちあわせ中にその地震に遭遇し、すぐテレビをつけると地震なのに海が映っているのなぜか気になった。字幕がないために氏には分からなかった。夜になって大津波の被害を知った。被災地にも同じような人がいたであろう。しかし命に関する情報に格差があってはならない。その思いがこの作品の原点だと、トークの中で今村氏は語りました。

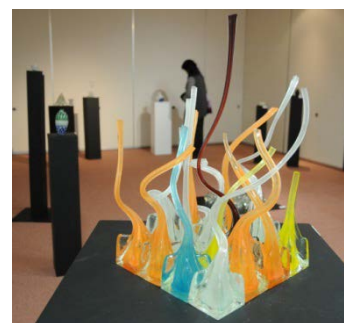
昨年、東京で初上映後に、気象庁の防災情報に関する部署の幹部が映画を観てショックを受け、「何かできることはないか」と連絡をしてきたそうで、全国ろうあ連盟とのつながりができて、聴こえない人のための防災教室など新たな対策づくりが動いているそうです。まさに「架け橋」が造られているのです。小島氏作詞作曲の「一人じゃない」を本人のピアノ演奏と歌で披露していただきました。温かく優しい楽曲の作品です。

今後も各地で上映の予定。映画の中で地元のろうあ者の方が語る言葉、「待っているだけでは社会は変わらない」。私たちにも勇気を与える言葉です。（総務担当理事 折出健二）

ガラス作品展(2/4-11)

本学の造形文化コースのガラス工芸を専攻する学生による「ガラス作品展」が2月4日（火）～11日（火）、附属図書館アイ・スペースで開催されました。

同展は、同専攻の3年生～大学院生が後期に制作したガラス作品を授業の一環として展示したのも。細胞分裂をイメージさせるユニークなオブジェ、子羊たちを可愛らしく表現した作品、植物をガラスで表現した作品、ドット模様をちりばめた色鮮やかな器など、ガラス加工の技法を駆使した個性的な19作品が展示されました。作品をいかに見せるかも考えて、配置や展示棚、照明の当て方などにも配慮した展示の実践として、指導教員の佐々木雅浩准教授と学生との講評会も行われました。



来場者は「大学でこんなガラス工芸があることは知っていましたが、作品を見る機会が少ない。面白い作品が並んでいて、楽しい作品展」と作品に見入っていました。



愛教大フェア in 刈谷(2/8、9)

刈谷駅前商店街のスペースAquaで2月8日（土）、9日（日）、本学のクラブ・サークルが参加して「愛教大フェア in 刈谷」が開かれました。



などが訪れ、学生たちのパフォーマンスを楽しみました。

9日には、本学の家政教育講座から生まれた食育キャラクター「食まるファイブ」の栄養バランスを考え、地元刈谷特産の切り干し大根を使ったレトルトカレーの完成・発売を記念した試食会も行われました。試食した親子連れは「辛さを抑えた美味しいカレー。子どもも大人も楽しめる味」と、頬張っていました。カレーとともに、愛教大オリジナルグッズの販売もありました。



参加した学生は「こうして発表の機会があるのはありがたい。喜んでもらえて嬉しかった。今後もチャンスがあれば参加したい」と話していました。

同商店街では、これまで本学との連携で美術の展覧会などが行われてきましたが、今回はアカペラサークル、マジックサークル吹奏楽団、訪問科学実験のサークルが参加して、日頃の活動を披露する初めての企画。8日朝は大雪に見舞われて、人形劇が中止になったものの、地元の親子連れ



愛教人インタビュー

卒業生近藤安由美さんが「丹波の森ウッドクラフト展」グランプリ受賞(報告)

昨年本学大学院を修了し、現在は小学校教員の近藤安由美さんが、昨年の卒業・修了制作作品展に出品した作品「SWEET BOX」で、国内最大級の木工分野の公募展「第26回丹波の森ウッドクラフト展(木のおもちゃ大賞展)」でグランプリ文部科学大臣賞を受賞しました。本学では2005年に卒業生の加藤克俊さん以来です。26日に今年度の卒展が始まるのを前に、喜びの声と本学での学びについてインタビューしました。



*
—おめでとうございます。応募作品102点の中から、見事にグランプリに輝いた感想は。

学部、大学院で学んだ集大成だったので、受賞できて嬉しかったです。コンテストは「テーマ部門」と「自由作品部門」の2部門があって、私はケーキをモチーフにした作品で自由作品部門に応募。2年前には佳作になったので、それよりは上位になるといいと思っていましたが、グランプリはこれまでテーマ部門から選ばれることが多かったのですが、テーマ(今回は「つなぐ」)にそっていませんでした。電話があって、グランプリと聞いて、震えました。(笑)

—今は大治町内の小学校の先生をされていますが、子どもたちの反応はどうでしたか。

担任をしている3年生のクラスの子どもたちにも、「一番とったよ」と言ったら、子どもたちはすごく喜んでくれました。教室ではクッキー型のマグネットなどを使っていますが、子どもた

中には得意なものがある先生とってくれるら嬉しいですね。

—集大成の修了制作作品で、グランプリ受賞作品は、どんな思いを込めましたか。

小さい頃から食べ物のモチーフが好きで、学部生だった2年前から、焼き菓子の作品を作り始めました。木の自然の色を生かしてクッキーのマグネットやテープカッターやカレンダーなどの文房具を卒業制作。院に入ってからはいくつか発展した作品をと、ケーキのモチーフの入れ物をテーマにして、修了制作で12個の「ふたをかぶる」「引き出す」などそれぞれ仕組みの違うものを作りました。積層技法といって、何種類かの木材を層にして、高さのそろったパーツを切り出しました。モチーフをどう表すかが課題で、デパートやケーキ屋さんでケーキを観察。着色しないで木の色を生かす、釘を使わないのがポイントだったので、材木屋さんで実際に木を見ながら「この色の木を」と注文。イチゴには赤、ブルーベリーには紫色の木をと、材料選びに気を使いました。テーマは決まったものの、そこから迷ったり止まったりで、制作には半年ぐらいかかりました。



—近藤さんの作品を見て、木によってこんなに色の違いがあるのかと驚かされました。そんな独自の作品が評価されての受賞ですが、これからの制作はどうしますか。

教員初年で、毎日が全部手探り。カリキュラムが決まっていて、それをこなすのに精一杯で、作品作りの時間はありません。なかなか上手くいかないこともあって、そんな時は辞めて、木工家になろうかとも思ったこともありましたが、今は経験をしていけばできるようになるのではと頑張っています。いつか“自分の色”が出せるようになったら、制作を再開したいです。

—そんな近藤さんから、後輩の学生たちへのアドバイスをお願いします。

卒業すると、制作だけに打ち込めない時期、やりたいことができない時期があります。学生として与えられた自由な時間を有効に使って、悔いがないように過ごしてください。

(インタビュー：秘書広報課 渉外広報係長 小林則子)

写真は、1枚目：学部卒業作品を手にする近藤さん。2・3枚目：大学院修了作品（2013年2月の卒業修了展）。なお、グランプリ受賞作品は兵庫県丹波年輪の里・木のホールに、歴代のグランプリ作品と共に展示されています。受賞作品は下記のURLからご覧いただけます。

http://nenrin.org/w_craft/

http://nenrin.org/w_craft/result/wc_ip.html

お知らせ・報告・投稿

本学が2012年度卒業生の教員就職者数で全国1位(報告)

1月下旬、文部科学省が国立の44教員養成大学・学部(教員養成課程)の2012年度卒業生(2013年3月卒業生)の教員就職状況について公表しました。これは毎年公表されているものですが、全国の教員養成課程全体では10,585人が卒業し、正規採用3,729人と臨時採用2,756人を合わせた教員就職者数は6,485人で、教員就職率は61.3%、前年度から率では0.3ポイント減少しました。大学院進学者や保育士就職者を除いた場合には、教員就職率は70.1%で前年度比0.7ポイント減となりました。前年度に引き続き、就職率は2年連続で下降しました。ただし、2000年度に比べると、就職率は倍近くに上昇しています。

本学教員養成課程の卒業生は673人で2011年度より14人増。そのうち、正規採用者は316人(前年度比で35人増)で、300人を超えたのは本学のみで全国1位。臨時的採用者は174人(前年度比で9人減)で、全体の教員就職者数は490人で、こちらも全国1位(前年度比26人増)。正規採用数の2位は大阪教育大学で258人、全体の教員就職者数の2位は476人の北海道教育大学でした。教員就職率は、本学は72.8%(前年度比2.4ポイント増)の全国第4位、1位は兵庫教育大の83.1%でした。

また教職大学院（教育実践研究科）は、修了生 38 人のうち現職教員を除く 21 人のうち、正規教員 13 人、臨時教員 7 人の合計 20 人が教員になり、教員就職率は 95.2%。教員以外の就職者が 1 人いますので、教員と合わせた就職率は 100%となりました。

このように、本学は、教員就職者数・率ともに全国トップレベルにあるといえます。今後とも優れた教員を養成し続ける愛知教育大学にご期待ください。（学長 松田正久）

※

詳細は下記の URL からご覧いただけます。

■文部科学省発表資料「国立の教員養成大学・学部（教員養成課程）等の平成 25（2013）年 3 月卒業者の就職状況については」、以下の文部科学省 HP を参照ください。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/01/1343382.htm

愛知県内教育委員会と地域教育連携推進協議会（報告）

昨年12月18日（水）午前10時から愛知県内教育委員会との地域教育連携推進協議会が開催されました。

愛知県教育委員会の笹尾幸夫学習教育部長を始め11人の教育委員会関係者と、本学の地域連携センター長の都築繁幸理事はじめ関係者18人の合計29人が参加しました。

教員養成と採用そして研修の連携を強化し円滑にするために活発な協議が行われました。

主な意見は次のとおりです。

- ◆教育センターや校内研修で実施されている研修内容の情報提供及び、研修講師の依頼
- ◆初任研や5年研だけでなく、若手教員研修の充実
- ◆学校現場の厳しい現実をしっかりと学生たちに理解させるとともに、心身ともにタフな教員を養成するため、大学の初年次教育・キャリア教育・教職実践演習の充実や学外体験活動の増加等、さらなる大学と教育委員会・学校現場との連携強化（特別学長補佐 一宮登）



就活メイク講座（報告）

1月28日（火）から30日（木）までの3日間、本学の学部3年生の女子学生を対象とした「就活メイク講座」を、愛知県中小企業団体中央会との共催で学内において開催しました。各回定員を30人として、3日間で計90人の学生が参加して実技指導を受けました。

講座開催は、キャリア・カウンセラーへの「化粧をどうしたら良いか？」という一つの相談がきっかけでした。キャリア支援課で検討し、中小企業団体中央会が派遣している愛知県化粧品小売協同組合のプロに講師をお願いしました。

講座では教材のメイク道具を使って4人のプロから、アイラインのひき方、マスカラの塗り方、眉の描き方の指導を受けて、学生たちは普段の自己流のメイクとは違った就職活動生にふさわしい化粧方法を学びました。



参加者はまた、自分に似合うヘアスタイルについて講師に質問を投げかけながら真剣に取り組み、これからの就職活動に向けての身だしなみの重要性を再確認していました。

受講した学生からは、「基礎から教えてもらって参考になった」「就活向けのメイクが学べて、自信を持って企業訪問や面接に臨める」「悩んでいたことがスッキリ解消した」などの感想が寄せられました。また、講師陣からは「愛教大の学生は理解が早くて、手際が良い。質問も活発で積極的」と好評を受けました。

（キャリア支援課 係長 小川治輝）

招へい研究員のサンパウロ大学トマナリ教授が本学滞在レポート

The richness of my interactions with AUE students

I'm Dr. Gerson Yukio Tomanari, Psychologist, professor, researcher and the current director of the Institute of Psychology at the University of São Paulo, Brazil. I've been honored with a grant from Aichi University of Education to work in collaboration with Dr. Kimiko Nii in a project that aims to analyze the psychological aspects of Brazilian residents in Japan, particularly with respect to the behavioral and learning processes of Brazilian children in schools.

My time as a visiting professor has been an amazing experience. I have come to know more closely the wonderfully well-structured educational system in Japan. I have visited schools and interviewed directors, children, parents, teachers. Marvelous things I've learned from all of them.

However, one activity has delighted me in a very particular way, that is, my personal interactions with AEU students in classrooms. I had short conversations in basic Portuguese with each individual student of two groups of Dr. Nii's *Português I*. In *Português IV*, invited by Prof. Emi Antunez, the students asked me questions about Brazil, as I also asked them questions about Japan in return, all in an advanced use of the Portuguese language! I also participated of Dr. Nii's classes of Brazilian Culture, where each student reported in English a certain aspect of Brazil they had previously researched, and I commented and answered their questions. I was amazed on how well prepared the students were to discuss

major matters about Brazil today. Topics like Bioenergy, Economy, Immigration, Agriculture, Education, Culture and Sports were raised and we had a very rich discussion.

I learned from the Japanese students, as I hope they could also have learned a bit from me. To be with the students certainly is one of the most enjoyable experiences I have during my

stay in AUE. Thanks all of the students I've met!

Thanks AUE for providing me with such a valuable international collaboration!



催しもの案内

◆UNOセレクション「版画二人展」

2月16日（日）～23日（日）10：00～17：00（最終日は16：まで）

刈谷駅前商店街 スペースAqua

主催：刈谷市駅前商店街振興組合 後援：刈谷市教育委員会、商工会議所、本学

出展：野澤博行特別教授、岡田実氏（本学卒業生）

内容：本学で35年間にわたり版画授業を担当した野澤教授と、教職の傍ら質の高い木版画作品を作り続けた最初の卒業生岡田氏との二人展。

問い合わせ：NPO法人まちづくりかりや TEL 0566・45・6440

◆宇納一公 愛知教育大学退職記念「時の記憶 美術展」

2月19日（水）～23日（日）10：00～20：00（22日は18：00まで、23日は17：00まで）

知立市文化会館パティオ池鯉鮒 ギャラリー/ワークショップ室ⅠⅡⅢ/ロビーなど

主催：宇納一公退官記念美術展実行委員会

内容：宇納一公特別教授が、1975年に本学美術教室の助手に着任以来広がったネットワークから生まれた仲間たちとの展覧会。卒業生ら50人が作品を出展。

問い合わせ：宇納一公特別教授 TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 4 4 5

◆リベラルアーツプロジェクト講演会「教員養成系大学におけるリベラル・アーツ—愛知教育大学における教養教育とリテラシー—」

2月19日（水）12：45（受付開始）13：20～16：25 要参加問い合わせ

第一共通棟301教室

内容：13：25「教養科目の全体像」

第一部・基調講演「大学教育とリテラシー」

講師・松下佳代氏（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

第二部・授業実践報告

15：20科学リテラシー「自然の事物・事象について考える」

大賀聖公准教授（理科教育講座）

15：35現代的仮題「自然災害と防災・減災の科学」

戸田茂教授（理科教育講座）

15：50ディスカッション など

問い合わせ：教育創造開発機構運営課

TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 7 1 7

◆「発達障害者の支援に関わる者の専門性の追求」フォーラム

2月23日（日）10：00～16：00 参加無料 要予約

愛知県産業労働センター ウィンクあいち1101会議室

内容：学校現場において発達障害に関する専門的・実践的な知識を有する教職員を育成するプログラムを開発するために、特別支援教育支援員と通級指導教室に焦点を当てながら、発達障害者の支援に関わる者が習得すべき知識等は何か、専門性とは何かを講演会で協議。

詳細は本学ホームページのイベント紹介を参照。

http://www.aichi-edu.ac.jp/files/syogai_forum_140212.pdf

問い合わせ：教育創造開発機構運営課

TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 4 1 7

◆愛知教育大学卒業・修了制作展 2013

2月26日（水）～3月2日（日） 9：00～17：00（土日休館、最終日は13：00まで）

刈谷市美術館 観覧無料

本学美術/造形文化/大学院美術専攻の卒業生・修了生の作品を展示。

詳細は下記URLを参照。

<http://www.art-edu.jp/blog/index.php?itemid=57>

編集後記

アメリカの協定校訪問の際、フレドニア校の計らいでドイツ系移民のアーミッシュの村を訪問。アーミッシュの人々はアメリカ移民当時の生活様式を継承していて、農耕や牧畜で自給自足生活。馬車や薪ストーブを使い、製材や木工・キルト製品で現金収入を得て、日が昇ると起き、日が沈むと寝る…そんな生活が未だに続くのは、家族の絆を大切にする宗教観からだそうです。子どものころ毎週見ていたアメリカ開拓期のドラマ「大草原の小さな家」の世界が目の前に出現して、「人間の幸せってなんだろう」と考えさせられました。同校へ留学する学生にはぜひ訪ねてもらい場所です。（K）



投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二